



主な内容

巻頭言—— 附属病院長就任挨拶

岩手医科大学創立120周年記念事業の総括と御礼

トピックス—— オープンキャンパス2024が開催されました

募金状況報告

フリーページー すこやかスポット歯学講座No.24

「全身のリスク因子となる歯周病」

表紙写真：オープンキャンパス2024の看護学部ブースで行われた高齢者疑似体験
(関連記事P.8)

附属病院長就任挨拶

附属病院長 もりの よしひろ 森野 禎浩

(内科学講座循環器内科分野 教授)



この度、小笠原学長の院長退任に伴い、8月1日より附属病院の舵を取ることとなりました。歴史と伝統を有する当院の責任を担うことの重さを深く感じております。日頃より附属病院の運営に最大限のご協力を賜っている教職員の皆様に、心より感謝申し上げます。

記録的な暑さを乗り越え、皆様それぞれ夏休みを過ごされたことと思います。気分をリフレッシュされ、秋以降の附属病院の活動に向けた心の準備が整っていることを期待しております。

これから、「Change or Die」という言葉がぴたり当てはまる年度後半に突入します。様々な課題や潜在的な危機に関しては、既に理事長や学長から皆様へ情報が共有されており、各部門が知恵を絞って改善・改革活動を進めています。おかげさまで、「ローコストオペレーション」などの施策の効果も成果を積み重ねており、いよいよ本丸に手を入れる時が来ました。

まずは、全職員が「本来あるべき附属病院の姿」を明確に描き、その理想像に向けて共に進んでいきましょう。当院は技術、診療規模ともに東北随一です。したがって、高度かつ専門医療に特化し、最重症患者の救急医療をさらに推進することで、東北地区の医療の最後の砦となることが我々の存在意義と言えます。この分野への「選択と集中」、および「差別化」は、我々組織の生命線です。

東北で我々にしかできない高度医療を調査し、病院として組織的に広報し、患者さんが円滑に

受診できる動線を確保したいと思います。そして、できるだけ多くの患者さんにその恩恵を還元したいと考えています。特に先進的な医療の典型である臨床「治験」は、最優先で取り組めるよう院内の意識統一を図ります。また、重症患者だけでなく、各診療科でも最新医療を提供できる組織への転換を目指し、それぞれの事業計画を練っていただきます。

矢巾移転後の医療ニーズが明確になってきた今、年度内に病棟再編も必要です。集中系病棟の再編は一旦完了する見込みですが、これからは一般病棟の再編や、移転後の課題であった内丸と矢巾入院仕分け、検査枠の拡大や柔軟性の向上を目指します。各ステークホルダーには少しずつ負担をお願いすることになりますが、病院の発展のために進めてまいります。

患者第一主義は、「全職員の幸福」なくしては達成できません。予算には限りがありますが、環境面での待遇改善を繰り返し図ることが、私の最大の目標です。病院周辺も大きく発展しつつありますが、日本一のメディカルタウン矢巾を目指し、働きやすく楽しい職場環境を作ってまいりましょう。そのためのアイデアも、広く募集いたします。

皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

岩手医科大学創立120周年記念事業の 総括と御礼

企画部企画調整課

平成26年度以降、本法人は「創立120周年記念事業」を推進し、新たな歴史開拓に向けて各事業を展開してまいりました。記念事業の実施にあたっては、学内外の皆様から多大なるご尽力・ご協力を頂いており、衷心より御礼申し上げます。本号ではこれまでに実施してまいりました事業の総括等についてご報告いたします。

事業の発足

創立者三田俊次郎は、明治30年4月20日私立岩手病院を開院し医学講習所と産婆看護婦養成所を併置して医師と看護師の養成を開始、医学講習所は明治34年に私立岩手医学校へと発展しました。

従前の岩手医科大学は、財団法人岩手医学専門学校が設立された昭和3年を創立年に定めていましたが、平成26年3月の理事会・評議員会において大学の淵源・創立年が明治30年にあることを確認しこれを改めるとともに、先人の偉業を讃え、創立から120年の節目を祝う「創立120周年記念事業」の実施を決定しました。当該事業には記念式典や学術イベント等の他、総合移転整備計画の最大事業であった附属病院新棟建設・移転及び附属内丸メディカルセンターの整備事業、看護学部の開設事業を定め、創立者が掲げた「厚生済民」「誠の人間の育成」の理念の下、新たな歴史開拓に向けて邁進することとしたものです。

事業の歩み

爾来、卒業生や在学生父母、寄付者、学内外の関係者、地域社会のご協力も得ながら本事業に取り組んだ結果、平成29年4月には看護学部を開設し医療系4学部を有する医療系総合大学へと発展を遂げ、令和元年9月には悲願であった矢巾地区への附属病院新築移転・内丸メディカルセンター開設が実現、北東北・北海道エリアで最大規模を誇る高度医療拠点を整備するに至り、私学の雄としての地位を確立できたことは開学以来の大きな成果でありました。

一方、令和2年度以降は病院の運営を軌道に乗せ、残す内丸メディカルセンター新棟建設並びに内丸跡地の再開発事業を推進する計画でありましたが、附属病院建設に係る借入金返済が始まった中、新型コロナウイルス感染症の拡大による診療・手術制限等に伴う医療収入の減少や消費税問題、更には近年の物価高騰等に伴う支出の増大が法人経営に甚大な影響をもたらした結果、事業実施の見通しが立たず、見直しを余儀なくされることになりました。現在、本法人は短期的・中長期的な視野に立った抜本的な経営改善計画の策定に取り組んでおり、内丸地区の在り方についても再度検討を重ねることとしています。

これまでに実施した主な事業や取り組みをご紹介します。

創立年の変更、記念ロゴマーク等の制定

本学の淵源を私立岩手病院、医学講習所、産婆看護婦養成所が設置された明治30年4月20日に改めました。周年事業のロゴマーク・スローガンは一般公募を行い、ロゴマーク部門64作品、スローガン部門77作品の中から選定しました。



誠のあゆみ、未来へつなぐ

記念バナーフラッグ・カウントダウンモニュメントの製作

矢巾キャンパスに記念ロゴマーク・スローガンを活用したバナーフラッグ及びカウントダウンモニュメントを設置しました。



ラッピングシャトルバスの運行

現岩手医科大学1号館（旧私立岩手病院診療棟）と矢巾キャンパスの写真を大学シャトルバスに装飾しました。



ノベルティグッズ等の制作

大学ブランドをより積極的に発信すべく、教職員・学生・圭陵会員、ご父母の皆様に向けて記念グッズを制作しました。

ネクタイやマウスパッド等の一部グッズについては、矢巾キャンパスヤマザキ売店にて販売中です。



記念イベントの開催

本学が有する「医のちから」「知のちから」を地域に発信するとともに地域とのつながりを深めることを目的として平成27年、28年に「健康フェス」を実施しました。教職員・学生・関係機関協力の下、大勢の一般市民が来場し、大盛況のうちに幕を閉じました。



記念式典・祝賀会の開催

創立 120 年の節目にあたる平成 29 年 4 月 20 日、創立 120 周年記念式典・祝賀会を盛大に挙行了しました。記念式典には、来賓、招待者、同窓生、本学教職員、一般の方々 810 名、祝賀会には 636 名の出席を賜り、盛会裏に終了しました。



歴史資料収集、創立 120 周年記念誌の編纂

県内外の機関や圭陵会をはじめとする各方面からのご協力の下、本学の歴史にまつわる貴重な資料等を収集しました。また、草創期からの歩みを取り纏めた記念誌も編纂しました。

「岩手病院 岩手医学校 岩手看護婦養成所
岩手産婆学校 及其他ノ事業
十年間 概要報告」

著者：三田俊次郎、三浦貞道
発行：明治40年(1907)6月30日(岩手県立図書館所蔵)

医育制度の改革により「私立岩手医学校」を閉じるにあたって、過去10年間の運営の概要を岩手県に報告した冊子(22.4cm×15.0cm、全43ページ)。



平成 29 年 4 月発刊

看護学部の開設 — 医療系総合大学への発展

平成 29 年 4 月に入学定員 95 名、収容定員 370 名（4 年制）の看護学部を開設し、本学は医療系 4 学部を有する医療系総合大学に発展しました。学部の垣根を越えた連携教育を実践し、早期からの「チーム医療」の学びを通じて、総合的な医療人の育成を目指しています。



附属病院新棟建設・移転、内丸メディカルセンター開設

記念事業における最大の柱であった附属病院建設事業は、令和元年7月に完成を迎えました。病床数1,000床、手術室20室を備えた新病院は国内屈指の規模を誇り、病院機能として高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、緩和ケア病棟等を整備し、県内唯一の特定機能病院として高度医療の提供と地域医療の中心的な役割を担っています。また、旧附属病院施設は、高規格の外来機能を備えた内丸メディカルセンターとして整備し、令和元年9月に附属病院と同時に開院し地域医療を支えています。

両病院は、新型コロナウイルスの国内流行下においても、県内高度医療の最後の砦としてその責務を全うしました。

附属病院



ハイブリッド手術室
シングルプレーン（4階）



ハイブリッド手術室
術中CT（4階）

内丸メディカルセンター



外来棟



入院棟



歯科医療センター

関連施設



トクタヴェール



コスモス館（企業誘致）



ホテルルートイン（企業誘致）



エネルギーセンター



やはばなかよし保育園

内丸地区から矢巾地区への患者搬送

令和元年9月21日（土）、附属病院移転に伴う内丸地区から矢巾地区への患者搬送は、自衛隊や消防、警察、県内外の医療機関等の協力の下に行われ、搬送スタッフ1,200名、搬送車両53台により、114名の入院患者を無事搬送しました。



創立120周年記念事業募金

創立120周年記念事業募金は、学内外の多くの皆様からご賛同を賜りました。寄付者の皆様には事業の進捗状況をお伝えするとともに、寄付者銘板やWEB芳名録、大学報での芳名紹介を行った他、称号の授与や記念品の贈呈等、顕彰活動の充実に努めました。

1 募金状況

〈募金期間〉

平成26年6月1日～令和6年5月31日

〈募金目標額〉

50億円

〈募金実績〉

【個人】 2,578名 1,440,855,099円

【法人・団体】 414名 1,358,904,000円

【合計】 2,992名 2,799,759,099円

区分	申込件数	寄付金額（円）
主 陵 会	1,118	673,505,089
在学生ご父母	935	552,622,000
役員・名誉教授	104	127,820,000
教 職 員	271	36,572,000
一 般	150	50,336,010
法人・団体	414	1,358,904,000
合 計	2,992	2,799,759,099

※法人・団体区分には、主陵会員、在学生父母等が経営する医療機関・企業等からの寄付を含む

2 顕彰活動

寄付者のご芳名は寄付者銘板、WEB芳名録において末永く刻まさせていただきます。また、医療費等の減免、人間ドックの無料利用等は、募金期間終了後も有効期間中は継続します。



寄付者銘板（附属病院1階メイン通路）

事業協力の御礼

学校法人岩手医科大学 理事長 祖父江 憲治

本事業の実施にあたっては、学内外の皆様から多大なるご尽力・ご協力を頂いたことにあらためて深く感謝の意を表します。特に募金事業においては、延べ2,992件、累計27億9,975万円もの賛同を頂いており、総事業費が約698億円に上る本事業推進の大きな原動力となりました。寄付者のご芳名は附属病院に設置した寄付者銘板及びWEB芳名録に掲げており、教職員や患者様はじめ来学される多くの皆様に認知されております。

本法人は創立者が掲げた理念を第一義に、引き続き医療系総合大学として質の高い教育研究活動を実践し、県内唯一の特定機能病院として高度医療の堅持と地域医療への貢献を果たしていく所存です。関係者の皆様には、引き続き変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

ライオンズクラブ国際協会から本学眼球銀行及び小児がんの子どもたちへの支援に対する寄付金が贈呈されました

6月28日（金）、本部棟4階大会議室において、ライオンズクラブ国際協会332-B地区から岩手医大眼球銀行（アイバンク）及び小児がんの子どもたちへの支援に対する寄付金が贈呈されました。

同協会からはアイバンクに対し毎年100万円以上の寄付金が贈られ今年は1,553,995円が贈られました。小児がんの子どもたちへは669,588円が贈られ令和5年度から続いています。小笠原学長は「皆さんからのご寄付はアイバンクが続いている要因の一つ。病気と闘う患者さんや医療従事者にとっても励みになる」と感謝状を贈りました。

贈られた寄付金はアイバンクの運営費や小児科病棟のイベント開催等に活用されます。



ライオンズクラブ国際協会の皆様と本学関係者

医療専門学校祭が行われました

7月28日（日）、医療専門学校上ノ橋校舎において、医療専門学校祭が行われました。本校では初の開催となります。

第3回オープンキャンパスと同日に行われた学校祭には高校生や保護者、在校生が多数参加し、焼きそば・たこ焼き等の模擬店コーナーや歯石除去等の体験コーナーで好評を博しました。

参加者はもちろん、準備をしてきた在校生や教員も楽しんでおり、初めての学校祭は不成功に終わりました。



模擬店コーナーで焼きそばを作る学生

オープンキャンパス2024が開催されました

7月27日（土）、28日（日）の両日、矢巾キャンパスでオープンキャンパス2024が開催され、岩手県内をはじめ全国各地から高校生や保護者など936名が参加しました。

当日は入学を希望する学部に分かれての学部紹介やミニ講義、体験実習のほか、在学生とのフリートーク、キャンパスツアー、教員との進学相談会等、たくさんの企画が用意されました。

参加者からは「普段の高校生活では経験できないことを体験することができ、非常に実りのあるものとなった」、「充実したキャンパスライフを過ごすことができると感じた」との感想が寄せられました。



医学部 学部紹介・ミニ講義



歯学部 体験実習「歯を削ってみよう！」



薬学部 調剤体験

市民公開講座が行われました

今年、42 回目を迎えた市民公開講座（テーマ：少子高齢化社会を支える健康づくり―日々の生活から全世代の健康を考える）が、8月1日（木）から3日間にわたり矢巾キャンパス大堀記念講堂で行われました。

今年の市民公開講座は、5 講座が開講され、延べ 570 名の方々が受講しました。受講者は熱心に聴講し、貴重な学習の機会となったようです。

8月1日（木）



「みんなで創る地域包括ケア ～健康になれる環境づくりへ向けて～」

看護学部地域包括ケア講座

岩渕 光子 教授



「健やかな育ちと人生を支える "アタッチメント"」

医学部神経精神科学講座

八木 淳子 教授

8月2日（金）



「何が違うの健康食品 ～正しく理解して健康づくり～」

薬学部臨床薬学講座臨床薬理学分野

工藤 賢三 教授



「脳卒中を知り予防を知れば 人生あやうからず」

医学部内科学講座脳神経内科・老年科分野

板橋 亮 教授

8月3日（土）



「今ある日本の医療の危機」

岩手医科大学

小笠原 邦昭 学長



大堀記念講堂で行われた市民公開講座

ウェルかむ 2024 が行われました

8月3日（土）、歯科医療センターにおいて、歯科医療センターの様々な業務や活動内容を紹介し、見学・体験を通じて歯科医療に興味・関心をもってもらうことを目的に「ウェルかむ 2024」が行われました。未就学児のお子さんから中学生までの生徒さんとその保護者の方々が参加し、歯の治療や歯みがき体験、デジタル歯科治療機器の操作体験等の他、夏休みの自由研究の参考になる「夏休み 宿題相談会」も開催されました。

参加者からは「いつも自分がやってもらっている治療が、難しいものだということがわかった」「もっと歯を磨けば、汚れが取れることを改めて知ることができた」等の感想が述べられ、地域の方々が知識を深める良い機会になったようでした。



歯科治療体験

岩手医科大学秋季卒業式が 挙行されました

9月10日（火）、大堀記念講堂において、令和6年度岩手医科大学秋季卒業式が挙行され、医学研究科博士甲3名・乙2名、薬学部20名が卒業を迎えました。

式では、卒業生一人ひとりに小笠原学長から卒業証書・学位記が授与されました。小笠原学長から「お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、医療人として社会に貢献してほしい」と式辞があり、祖父江理事長から「本学で学んだことを糧に、これからの医療人人生を歩んでほしい」と祝辞が述べられました。



卒業証書・学位記授与

表彰の栄誉

臨床薬学講座地域医療薬学分野の松浦 誠 特任教授が 岩手県薬剤師会から学術賞を受賞しました



この度、岩手県薬剤師会より「学術賞」を受賞しました。この栄誉は、これまでの研究を通じて得られた知見を学会や研修会で広く県内外の薬剤師に還元し、後進の教育・指導と薬剤師の職能の向上・発展に寄与したことが評価されたものです。

現在の薬剤師業務は急速に変化しており、特にAI技術やロボットの活用が重要になっております。私はこの点に注目し、ChatGPTという自然言語処理モデルを用いて、医療用医薬品の副作用がどのように生成されるかということについて評価しました。岩手県薬剤師会からの学術賞は、この研究が薬剤師業務において革新的であり、業務の質向上に寄与する可能性があることを認めて頂いた証です。

今後はさらにAI技術の発展を追いながら、臨床における諸問題の解決につながる研究に取り組んでいく所存です。

(文責：臨床薬学講座地域医療薬学分野 特任教授 松浦 誠)

薬理学講座情報伝達医学分野の小原 真美 助教が 岩手県薬剤師会から学術奨励賞を受賞しました

この度、岩手県薬剤師会より「学術奨励賞」を受賞いたしました。この受賞は、新生児集中治療室および児童精神科領域において薬剤師の業務を開拓・確立したことが評価されたものです。現在、医学部薬理学講座情報伝達医学分野の教員として従事しておりますが、岩手県内の薬剤師の資質向上に一層貢献するため、本学薬学部卒業生としての誇りを持ち、引き続き努力を重ねてまいります。また、自らの臨床能力の向上を目指し、研鑽を積んでまいります。

受賞にあたり、いつも御指導いただいております平教授（医学部薬理学講座情報伝達医学分野）、工藤教授（薬学部臨床薬学講座臨床薬剤学分野）ならびに御協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

(文責：薬理学講座情報伝達医学分野 助教 小原 真美)



放射線腫瘍学科の家子 義朗 助教が米国医学物理学会において The 4th KSMP-JSMP-KAMPiNA International Symposium Awardを受賞しました



米国医学物理学会（AAPM：American Association of Physicists in Medicine、2024年7月、ロサンゼルス）において開催された国際シンポジウムにおいてThe 4th KSMP-JSMP-KAMPiNA International Symposium Awardを受賞しました。

このシンポジウムは、KSMP（韓国医学物理学会）、JSMP（日本医学物理学会）、KAMPiNA（米国勤務の韓国人医学物理士の団体）の3団体による国際シンポジウムで、各団体から数名が講演しました。私は「The Impact of Novel Functional Imaging-Guided Radiotherapy for Lung Cancer」というタイトルで、4DCTを用いた肺機能イメージングやそれに基づく新たな治療法、その関連研究として自身の研究成果を報告しました。日韓での活発な議論や交流ができ、大変良い経験となりました。また、シンポジウム前夜にはSymposium Receptionがあり、米国で活躍している韓国人の医学物理士と沢山交流しました。各国の放射線治療の考え方や医学物理士の体制・教育などに関して情報交換ができ、大変刺激になりました。

最後に、日頃お世話になっております医局員の皆様、放射線治療スタッフの皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

(文責：放射線腫瘍学科 助教 家子 義朗)

表彰の栄誉

救急・災害医学講座の吉直 大佑 助教が 日本集中治療医学会東北支部学術集会において最優秀演題賞を受賞しました

令和6年7月27日に開催された日本集中治療医学会第8回東北支部学術集会において、「多白血球血漿を用いた新規血中エンドトキシン測定法による敗血症患者の診断能と重症度の評価」という演題を発表し、最優秀演題賞を受賞いたしました。

本演題は、当教室で開発した多白血球血漿検体を用いて比濁法と生物発光法でエンドトキシンを測定する方法の診断能を検証する研究です。実験の結果、この新規エンドトキシン測定法は既存の敗血症性マーカーよりも高い精度でグラム陰性菌感染症を診断できることを明らかにしました。

本研究は小職の学位テーマでもあり、受賞できたことを大変嬉しく思います。また、受賞により、来年度の年次総会で発表する機会をいただきましたので、そちらでも受賞できるよう更に質を高めたいと思います。

最後に、眞瀬教授、高橋学准教授、稲田先生をはじめ、研究遂行にご指導いただいた諸先生方、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

(文責：救急・災害医学講座 助教 吉直 大佑)



医療薬科学講座衛生化学分野の米澤 穂波 助教が 日本がん分子標的治療学会学術集会においてポスター賞を受賞しました



この度、第28回日本がん分子標的治療学会学術集会（6月19日～6月21日、東京）において、「PIKKs安定化因子TELO2の機能抑制は悪性ラブドイド腫瘍細胞の増殖を阻害する」と題した研究発表を行い、ポスター賞と副賞として扇子を賜りました。

主に乳幼児に発生する悪性ラブドイド腫瘍は、非常に予後の悪い希少がんであり、有効な治療法は未だ確立されていません。情報薬科学分野の西谷直之先生との共同研究で、抗寄生虫薬イベルメクチンがTelomere length regulation protein TEL2 homolog (TELO2) への結合を介して、悪性ラブドイド腫瘍細胞に増殖阻害活性を示すことを明らかにしました。さらに、この増殖阻害活性は、悪性ラブドイド腫瘍の特徴であるSMARCB1遺伝子の欠損に依存することが示唆されました。本研究成果は、小児の正常な組織に侵襲性の低い悪性ラブドイド腫瘍治療薬の開発につながる事が期待されます。

最後に、ご指導賜りました西谷教授をはじめ、学会参加に際し寛大なご理解をいただきました杉山品規教授、ご協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

(文責：医療薬科学講座衛生化学分野 助教 米澤 穂波)

薬剤部の齋藤 一樹 薬剤師が 日本病院薬剤師会東北ブロック学術大会において優秀ポスター賞を受賞しました

この度、薬剤部の齋藤 一樹 薬剤師が日本病院薬剤師会東北ブロック 第13回学術大会（令和6年6月22・23日、青森）におきまして、演題「日本人患者におけるシスプラチン誘発性腎障害予測モデルの改善」を発表し、優秀ポスター賞を受賞しました。

我々は、様々ながん疾患の標準治療として使用されるシスプラチンの代表的な副作用・急性腎障害の予測モデル構築に関する研究を行いました。今回、シスプラチンを投与した患者1,785のデータを後方視的に調査・解析し、従来モデルに比べて識別力を改善し、予測精度を向上させた新たなモデルを提示しました。その結果、受賞という形でご評価して頂けたことは大変嬉しく思います。今後もこの受賞を励みにして、抗がん剤の副作用回避に貢献できるよう、引き続き精進して参ります。

最後に、受賞にあたりご指導、ご協力いただいた皆様方に深謝申し上げます。

(文責：薬剤部 薬剤長 二瓶 哲)



表彰の栄誉

医学部6年生の渡邊 莉子 さんが 東北救急医学会の学生・研修医セッションにおいて優秀演題賞を受賞しました

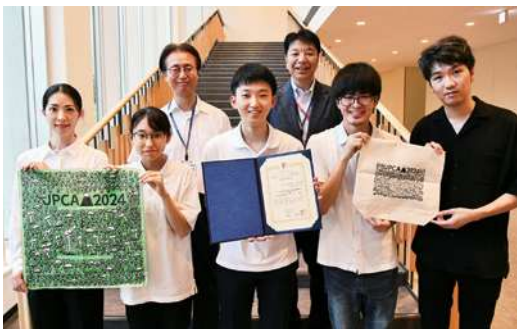
6月に秋田で行われた第38回東北救急医学会の学生・研修医セッションにて医学部6年生の渡邊莉子さんが優秀演題賞を受賞いたしました。演題名は「敗血症性ショックを伴うフルニエ壊疽に対しCLAPの併用が奏功した救命症例」です。フルニエ壊疽は会陰部を中心に発生した重症軟部組織感染症で死亡率は20～40%に上ります。岩手県でも多くの症例を紹介いただいております。近年、骨軟部組織感染症に対し局所高濃度抗菌薬灌流療法（CLAP：Continuous Local Antibiotics Perfusion）が注目されており、様々な学会や学術誌で報告され日本発症の治療法として注目されています。当救命救急センターでも、以前から注目し施行しており、重症症例へ集学的治療に加えCLAPの応用で成果を上げています。今後、致死的な重症患者へのGame Changerとして、また機能予後を見据えたAbility Changerの可能性があり報告させていただきました。今後も最新治療のUp Dateとともに学生教育にも力を入れていく所存です。



左から：高橋准教授、渡邊さん、菅特任講師、眞瀬教授

今後、致死的な重症患者へのGame Changerとして、また機能予後を見据えたAbility Changerの可能性があり報告させていただきました。今後も最新治療のUp Dateとともに学生教育にも力を入れていく所存です。
(文責：救急・災害医学講座 特任講師 菅 重典)

総合診療医学講座で研究室配属を行った医学部4年生の北館 拓也 さんが 日本プライマリ・ケア連合学会学生セッションで優秀発表賞を受賞しました



後列（左から）：高橋講師、下沖教授
前列（左から）：江川さん、高嶋さん、北館さん、
山岸さん、近藤さん

この度、第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（令和6年6月7日～9日：浜松）学生セッションにて、医学部4年生の北館拓也さんが「コロナ禍は高齢者の主観的健康観にどのように影響したか？—矢巾町在住高齢者へのアンケート調査—」という演題で発表を行い、「優秀発表賞」を受賞しました。

北館さんは、江川貴美奈さん、近藤康平さん、高嶋真里衣さん、山岸月魁さんと共に昨年研究室配属にて総合診療医学講座に配属となり、5人で協力して地域の健康課題について向き合い、アンケート調査の手法で研究を遂行しました。配属期間後も学会発表を目指し、積極的に取り組み続けました。そうした努力が実を結び、今回グループを代表して北館さんが発表し受賞となりました。5人の学生さんには、将来地域の健康課題に目を向けることができる医師に成長してくれることを期待しております。

研究にあたり、ご協力くださいました矢巾町健康長寿課の皆様方、アンケートにご参加くださいました矢巾町の皆様方、指導にあたった総合診療医学講座の教員・スタッフに深く感謝申し上げます。（文責：総合診療医学講座 講師 高橋 智弘）

理事会報告（7月定例－7月29日開催）

1. 理事の職務担当区分について

2. 評議員の選任について

第4号評議員

医学部内科学講座循環器内科分野 教授 森野 禎浩（新任）
（任期 2024年8月1日から2026年3月31日まで
他の評議員の残任期間）

3. 教員の人事について

医学部臨床検査医学・感染症学講座 教授

仲村 究（前 医療法人三愛会池田記念病院内科 医師）
（発令年月日 2024年9月1日）

医学部脳神経外科学講座 教授

赤松 洋祐（前 同講座 講師）
（発令年月日 2024年8月1日）

4. 附属病院規程及び内丸メディカルセンター規程の一部改正について

6月の診療報酬改定に伴い、慢性腎臓病透析予防指導管理料算定のため「透析予防診療チーム室」を設置したいこと、附属病院においては既設のチーム医療部内に、内丸メディカルセンターにおいては多職種連携を推進し、医療の質を向上させることを目的として、新たにチーム医療部を創設した上で同部内に設置することとし、附属病院規程及び内丸メディカルセンター規程の一部を改正することを承認した。

（施行年月日 2024年8月1日）

新任教授の紹介

令和6年7月1日就任

薬理学講座病態制御学分野

中村 正帆 (なかむら ただし)

昭和53年1月13日
宮城県仙台市出身



研究テーマ

- ・睡眠覚醒系の機能解析
- ・全身麻酔薬の薬理作用
- ・薬物治療のアクティブラーニング

主な著者論文

- ・ In vivo [18F]THK-5351 imaging detected reactive astrogliosis in argyrophilic grain disease with comorbid pathology: A clinicopathological study. (J Neuropathol Exp Neurol. 2023;82:427-437)
- ・ Chemogenetic modulation of histaminergic neurons in the tuberomammillary nucleus alters territorial aggression and wakefulness. (Sci Rep. 2021;11:17935)
- ・ Histaminergic neurons in the tuberomammillary nucleus as a control centre for wakefulness. (Br J Pharmacol. 2021;178:750-769.)
- ・ オンライン薬理学ロールプレイの実践と課題 (日薬理誌 2021;156:338-344)

趣味

サイクリング、アウトドアアクティビティー

教職員への自己PR

伝統ある岩手医科大学の一員に加えていただき大変光栄です。小笠原正人先生の後任として薬理学講座病態制御学分野教授の重責を担うこととなり、身の引き締まる思いがいたします。薬理学は薬物治療の基盤となる学問領域ですので、基礎から臨床へ、実験ベンチからベッドサイドへと繋がるような質の高い教育と研究を展開できるよう、尽力してまいります。何卒ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成14年3月 山形大学医学部医学科 卒業
平成14年4月 亀田総合病院 初期研修医
平成16年4月 亀田総合病院麻酔科 医員
平成26年3月 東北大学大学院医学系研究科 修了
平成26年4月 東北大学大学院医学系研究科機能薬理学分野 助教
平成28年4月 東北医科薬科大学医学部薬理学教室 准教授
令和6年7月 現職

令和6年8月1日就任

脳神経外科学講座

赤松 洋祐 (あかまつ ようすけ)

昭和55年2月14日
岩手県岩泉町出身



研究テーマ

脳卒中の基礎・臨床研究

主な著者論文

- ・ 新規血栓溶解薬 Stachybotrys microspora triprenyl phenol-7 の虚血再灌流障害に対する神経保護作用 (Neurosci Lett 2011;503:110-4)
- ・ 糖尿病マウス局所脳虚血モデルにおける脳軟膜吻合を介した血流代償機構の障害とその治療法 (J Neurosci 2015;35:3851-64)
- ・ 頭蓋内硬膜動静脈瘻の血管構築に基づいた適切な治療法選択 (Oper Neurosurg (Hagerstown) 2021;20:364-72)

趣味

魚釣り (海、川)、スキー、野球

教職員への自己PR

令和6年8月岩手医科大学脳神経外科教授を拝命致しました。岩手県の脳卒中年齢調整死亡率は全国ワースト3位の常連で診療体制の改善は必須です。当科においては脳血管内治療を軸に、関連施設だけでなく脳神経内科、救急科と協力し質の高い脳卒中急性期治療の均霑化を達成することで、脳卒中死亡率の低下に貢献したいと思えます。研究面では、医歯薬総研と連携した岩手医科大学発の Translational research で、本学の発展に貢献できるよう邁進する所存です。

主な経歴

平成17年3月 愛媛大学医学部 卒業
平成17年4月 岩手県立中央病院 初期研修医・後期研修医
平成21年4月 東北大学大学院 入学
平成24年4月 米国カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校 研究員
平成27年3月 東北大学大学院 修了
平成30年9月 岩手医科大学脳神経外科学講座 助教
平成31年3月 米国ベイスイスラエルディコネスメディカルセンター 研究員
令和2年4月 岩手県立中部病院 脳神経外科 医師
令和5年12月 岩手医科大学脳神経外科学講座 講師
令和6年8月 現職

令和6年9月1日就任

臨床検査医学・感染症学講座

仲村 究 (なかむら きわむ)

昭和49年12月4日
沖縄県沖縄市出身



研究テーマ

- ・日和見病原体に対する宿主免疫応答
- ・病原体アウトブレイクの調査・解析
- ・新たな検査診断法の開発

主な著者論文

- ・オロソムコイド1を用いたM2bタイプ単球細胞の誘導および免疫抑制機序の解析 (Cytokine 2015;73:8-15.)
- ・新生児集中治療室における基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生大腸菌アウトブレイクの調査 (J Hosp Infect 2016;92:42-46.)
- ・迅速遺伝子検査機器を用いたClostridioides difficile トキシンB遺伝子検出法の開発 (J Microbiol Methods 2023;205:106666.)

趣味

音楽鑑賞、美術館訪問

教職員への自己PR

本年9月より医学部臨床検査医学・感染症学講座教授を拝命致しました。これまで、臨床面では感染症専門医・指導医として診療や抗菌薬適正使用、病原体アウトブレイク対応に従事し、研究面では感染免疫、新規診断法の開発、アウトブレイク調査等を専門としてきました。感染症、感染制御、臨床検査における活動を通して、本学の発展に少しでも貢献できますよう努力させていただきますので、ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成13年3月 琉球大学医学部 卒業
平成13年4月 琉球大学第一内科 研修医
平成20年3月 琉球大学大学院医学研究科 感染制御医科学専攻 卒業
平成23年4月 米国テキサス大学感染症内科 客員研究員
平成26年1月 福島県立医科大学 感染制御学講座 助教
平成29年4月 同 講師、附属病院感染制御部 副部長
平成31年4月 同 准教授
令和6年4月 医療法人三愛会 池田記念病院 内科
令和6年9月 現職

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第23回目のご芳名紹介です。(令和6年6月1日～令和6年7月31日)

■ 法人・団体等 (1件)

<ご芳名のみ>

医療法人社団 明誠会 (福島県南相馬市)
(敬称略)

■ 個人 (1件)

<1,000,000>

森本 紳一郎 (医23)
(敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
主 陵 会	509	225,208,220
在 学 生 ご 父 母	392	94,080,000
役員・名誉教授	51	54,780,000
教 職 員	47	7,460,000
一 般	27	488,073,572
法 人 ・ 団 体	311	214,505,481
合 計	1,337	1,084,107,273

(令和2年9月1日～令和6年7月31日現在)

産科・婦人科・リンパ浮腫外来

産科外来・婦人科外来・リンパ浮腫外来は、看護師5名・事務員5名で構成されています。10代から90代にかけて、幅広い世代の女性患者さんが受診されます。

産科外来では、産科病棟の助産師と連携しながら、ハイリスク妊産婦の妊婦健診・生活支援・食事指導・バースプランなどをサポートしています。

婦人科外来では、婦人科癌の検査・治療を受ける患者さんの不安に寄り添いながら、安心・安全に医療が受けられるように支援しています。

リンパ浮腫外来では、患者さん一人ひとりとの関わりを大切にし、手術後のリンパ浮腫に対する症状改善と悪化予防を目的としたケアを行っています。

私たちは、「チームで支え合う」ことを大切しており、女性のライフステージ特有の価値観や思いに寄り添い、社会生活を送りながら納得の行く医療を

受けることが出来るよう医師・看護師・多職種・認定看護師と連携しています。当外来では、患者さん・ご家族と「共に考える」ことを心がけながら、やさしさと思いやりのある看護を提供しています。

(主任看護師 奥 忍)



西6階C病棟

西6C病棟は、EHC(Urgency High Care Unit: 救急センターハイケア治療室)の後方病棟で多発外傷や消化器外科など集中治療を脱した患者さんを多く受け入れています。そのため、クリティカル部門とベッドコントロールを行い、転入が受けられる体制を整えています。3次外来からの緊急入院も多く、状態が安定していない患者さんもあるため、病態のアセスメントや緊急処置など迅速な対応も求められます。

患者さんは突然の入院や治療に対し、身体的苦痛に加え、大きな不安を抱えています。そのため、私たちは患者さんやご家族の訴えを傾聴して多職種と連携を図り、安心・安全な看護を提供できるよう努めています。また、住み慣れた地域へ少しでも早く帰れるようリハビリテーションを積極的に行い、ADL (Activities of Daily Living: 日常生活動作) の拡大

や社会復帰に向けて取り組んでいます。

患者さんやご家族の想いに寄り添い、やさしさとおもいを大切に日々の看護の質を高めていきたいと思っています。

(主任看護師 高橋 智恵子)



岩手医科大学報編集委員

祖父江 憲治	畠山 正充
影山 雄太	藤村 尚子
松政 正俊	高橋 慶
齋野 朝幸	阿部 俊
藤本 康之	杉下 佳子
白石 博久	石森 由樹
佐藤 泰生	菊池 いな子
佐藤 仁	最上 玲子
藤澤 美穂	高橋 淳美
塩山 亜紀	阿部 祥子
細田 留美子	

編集後記

今年の初秋は強力な台風により、岩手県も多大な影響を受けました。さらには残暑が厳しく、まさに温暖化を通り越して沸騰化。

岩手の涼しい秋はどこに行ったのでしょうか。

さて、今号のトピックスは7月に開催されたオープンキャンパスを掲載しています。未来の学生たちが全国各地からキャンパスを訪れ、工夫を凝らしたたくさんの企画を体験する姿からは、活気あふれる明るい未来が想像されます。そのエネルギーを少しでも読者の皆様に伝えられたなら幸いです。この号が、皆様の未来に明るい光をもたらすことを願っております。

(編集委員 阿部 俊)

岩手医科大学報 第555号

発行年月日/令和6年9月30日

発行/学校法人岩手医科大学

編集委員長/祖父江 憲治

編集/岩手医科大学報編集委員会

事務局/総務部 総務課

TEL. 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷/河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



全身のリスク因子となる歯周病

歯周病で来院された患者さんの多くが“歯肉の腫れ”を主訴として来院されています。その症状を早期に自覚される患者さんは少なく、来院された時点で既に歯肉の炎症に留まらず歯周組織が破壊されている事（図1）が多く、口腔内全体に炎症が拡大している症例も認められます。また歯周病が炎症性サイトカイン等、生理活性物質の影響で糖尿病や慢性腎臓病等に悪影響を与える事はよく知られていますが、それ以外の疾患にも影響を与える場合が少なくありません。

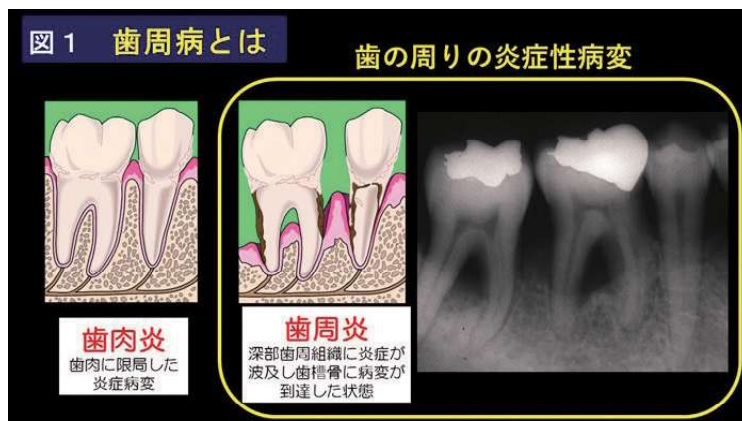
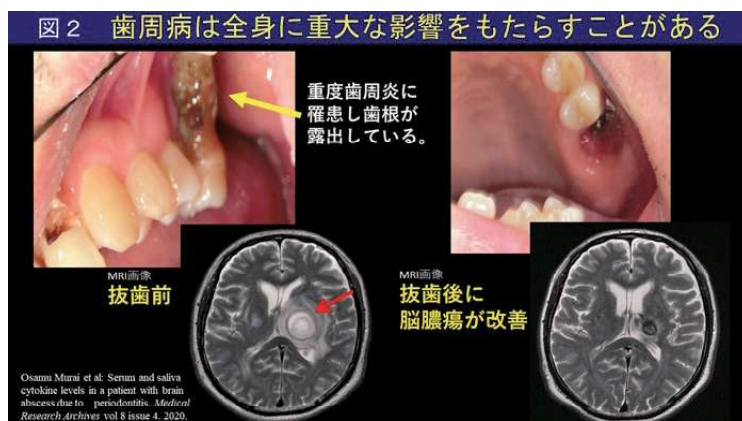


図2は本人が無自覚うちに、歯周病が血行性に脳膿瘍の原因となったと考えられた症例です。歯科初診時点で血液中の歯周病原細菌IgG抗体価が著しく上昇していました。拔牙も含めた歯周病治療を実施したところ、歯周病原細菌IgG抗体価は減少し、同時に膿瘍が縮小し意識レベルも回復して無事に退院されています。



また掌蹠膿疱症・掌蹠膿疱症性骨関節炎の主なリスク因子は、以前は歯科金属アレルギーとされていましたが、近年の報告では同アレルギーが原因となるのはわずか数%にすぎず、過半数の約60%の同患者において、歯周病を含む菌性病巣が発症リスク因子であると報告されました。その結果「掌蹠膿疱症診療の手引き 2022」、「掌蹠膿疱症性骨関節炎診療の手引き 2022」などの治療指針においては、掌蹠膿疱症・掌蹠膿疱症性骨関節炎に対する治療で最優先すべき治療は菌性病巣に対する歯科治療であることが示されており、我々の報告も多数引用されています。残念ながら、このような患者さんでは歯周病を自覚していることが少なく、また自覚できた時点では既に歯周病が進行して重症化している場合が多い傾向にあります。早期に歯周治療を受けることや定期的な歯周病の予防管理は、単に口腔内の炎症を除去するだけではなく全身の健康維持につながります。このことを良く理解していただき、早期に歯周病の診査・診断・治療を受けることが重要なポイントです。